



私が最も大切にしたいこと

天津市・天津外国語大学附属外国語学校 高1（女）

翟 冰清

十五歳の私はこれから高校生として新しい生活を迎えます。成長してきた私はこの十五年間のことを振り返ってみました。今まで、一番大切な物、一番大切にしたいことは何かと自分に問いかけたら、いろんな人からもらった笑顔が浮んできました。いろいろな励ましをくれた笑顔でした。

いろんな笑顔のおかげで、ここまで成長してきたのです。それに、笑顔には、悲しみを軽くし、楽しみを倍にし、悩みを半減する不思議な力があります。ですから、今の私はみんなを笑顔で迎えることを最も大切にしたいです。

この前、試験で失敗して、気を晴らすため、公園へ散歩に行きました。その人たちは景色を楽しんだり、遊んだりしていました。私は試験で失敗したことを思い出して、ちょっと悲しくなりました。「なんでほかの人はみんな成功しているのに、私だけいつもついてないの。」悲しみに浸った時、足がだれかの袋にぶつかりました。その袋から缶がいくつか外へ転がってきました。隣で缶を拾っていたおばあさんの視線に気付いて、おばあさんに「どうもすみません。」と謝りながら、慌てて缶を拾いました。顔が熱くなって、心がおばあさんに怒られるだろうと心配しましたが、おばあさんは「大丈夫。大丈夫。謝らなくてもいいのよ。」とにこにこしながら言ってくれました。なんだかおばあさんの笑顔はまぶしく見えました。通りすぎたおばあさんをふりかえてみると、おばあさんは缶などを拾い続けていました。年を取ったのに、まだ頑張って腰を屈め、やっていました。おばあさんの後ろ姿を眺めて、いろいろ考えました。おばあさんは決して生活が気楽ではありませんが、こんなに暖かい笑顔で人を迎えることができます。それに対して、私はちょっと失敗しただけで、まだ人生の苦しみなどがわかっていないのに、もうあきらめると思うのはほんとうに情けないです。私はおばあさんにやさしい笑顔で迎えられて、心も暖かくなりました。

もっと笑顔で人を迎える大切さを感じたのはある先生のおかげです。

ある日、私は先生にオフィスに呼ばれました。「成績が悪かったので、先生に怒られるだろう。」と思いましたが、先生は思ったのと違って、やさしく私の長所や得意なことについていろいろ話してくださいました。ちょっと頭を上げてみたら、先生はやさしく私を見つめていました。励ましも、期待も含んだ輝いた笑顔でした。

その時、なぜか頑張り続ける力が出たような気がしました。今考えたら、先生が笑顔で内向的で自信のない私を迎えてくださったからでしょう。

長い間、私はいろいろな人に励まされたり、助けてもらったりしましたが、でも、ほかの人のために何かやりたいとは思いませんでした。「こんな生き方は何の意味もないだろう。」と落ち込んでいましたが、幸い「笑顔で人を迎えること」の大切さに気付きました。笑顔で人を迎えるのはまるで人にすばらしい未来へ飛ぶ翼を与えるようなことです。私はぜひその翼をみんなに届けたいです。

ですから、笑顔でみんなを迎えることこそ、私が最も大切にしたいことです。今も、これからも……。